

公益社団法人日本マレーシア協会 2021年度の事業報告と 2022年度の主な活動予定



写真上: マレーシア半島部クダ州ムルボック湿地保護林で地域の人々が植林(2021年12月)
写真下: ボルネオ島サラワク州アペン国立公園で三菱商事KL支店の方が植林地を視察(2022年1月)

2022年4月

国内における活動

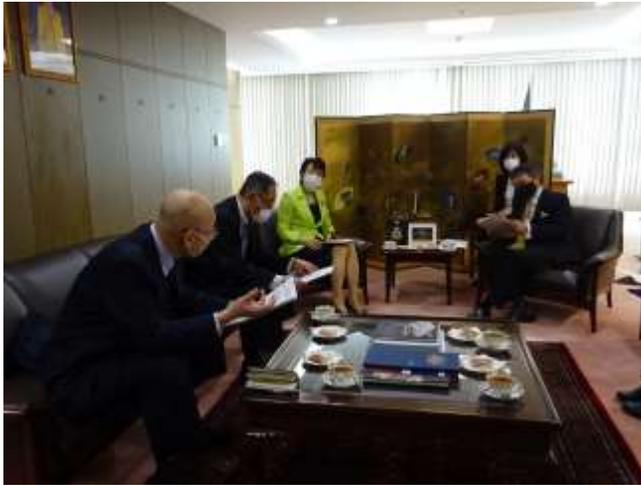
2021年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により国内並びにマレーシアにおける友好親善活動の推進に様々な制限がある状況が続きましたが、このような状況下においても、会員各位並びに関係者のご協力により、公益活動の推進に努めました。

当年度の国内並びにマレーシアにおける主な活動実績をご報告致します。

●駐日マレーシア大使と懇談

3月25日(木)、有村治子本協会副会長(日マ友好議員連盟幹事長)に同行し、ダト・ケネディ・ジャワン駐日マレーシア大使を訪問。小川理事長と森林理事が、サラワク州における熱帯雨林再生活動の現状と、新たに開始する水環境整備事業についての説明を行いました。

ダト・ケネディ大使より、同州公共事業省のダト・アリス・ジャワン事務次官(大使の実妹)をご紹介頂き、4月5日(月)に酒井在サラワクコーディネーターが同事務次官を訪問して水環境整備事業について説明し、州政府公共事業省として当事業へご理解を得ました。



ダト・ケネディ大使へ事業について説明



ダト・アリス事務次官を訪問

●ペナン総領事と懇談

新たに在ペナン日本総領事館にご就任された折笠弘維総領事が、赴任前の5月10日(月)、本協会をご訪問され、小川理事長、森林理事とマレー半島北部地域での日マ民間交流の推進などについて意見交換を行いました。



●マレー語スピーチコンテストを開催



マレー語を学習する大学生を対象に、日頃の成果を発表する機会の提供並びにマレーシアで開催される国際マレー語スピーチコンテスト予選会へ向けた場として、本協会では「マレー語スピーチコンテスト日本大会2021」を12月12日(日)、日本アセアンセンターホールにて開催しました。コンテストには首都圏の大学生15名が参加。駐日マレーシア大使館のリザー等書記官、マレーシア政府観光局のジュナイディ副所長、日本アセアンセンターのロズビヤナハユ事業統括長が審査員となり優秀者を表彰しました。当日は、検温、手洗い、マスク着用等、新たな社会規則に従った形で行いました。

●機関誌・資料発行配布、マレーシアの書籍の翻訳出版協力

1. 会報「マレーシア」の発行・配布

Vol.42～Vol.45を発行・配布しました。

2. マレーシアの書籍の翻訳出版協力

マレーシア学術出版会、マレーシア翻訳書籍研究所、本協会との翻訳出版協力活動の一環として紀伊國屋書店のご協力を得て、当年度は3冊の邦訳書籍の出版及び国内での紹介への協力を行いました。



『ラザック先生 マレーシアと日本の架け橋』

カルソム・フセイン他著

マレーシア・イスラム科学大学・マレーシア書籍・文芸局他刊

戦時中、南方特別留学生として在留時に広島で被爆しながらも戦後、マレーシアで青年教育と日本語教育に尽力した方の伝記です。本書は、会員・支援者各位へ進呈したほか、広島県・市立図書館を含む全国主要図書館へ献本しました。



『組織改革 概念と実施テクニック』

ムサ・アリ著

マレーシア理科大学・マレーシア翻訳書籍研究所刊

マレーシア等の行政機関や企業等でテキストとして使用されている書籍の邦訳書です。本書は国内での出版と紹介への協力を行いました。著者は日本を含む国際的な行政機関研修に携わっており、日本で研修が行われる際のテキストとしても使用される予定です。



『日本の環境哲学 ある旅行者の備忘録』

ザイニ・ウジャン著

マレーシア翻訳書籍研究所刊

マレーシア技術大学副学長、高等教育省、エギルギー・グリーンテクノロジー・水資源省の事務次官等を歴任した著者が、マレーシア人として、日本社会の特徴について環境面を中心に分かりやすく紹介します。著者は日本を含む世界各国の大学で客員講師を務めており、筑波大学等の授業でテキストとして使用される予定です。

マレーシアにおける活動

本協会では、1995年より、企業、団体、個人からのご協力を得て、サラワク州において熱帯雨林再生のための植林活動を行っています。伐採によって劣化した二次林におけるフタバガキ在来種の植林を主とした低地熱帯雨林の植生回復と、2017年からはマングローブ植林による湿地林の保全も行っています。2018年からは、クダ州においてマングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で熱帯雨林再生活動を展開しています。両地域の活動において、森林局や地域の国立大学、そして活動地域の村落や小中高校等と連携し、定期的に日本からボランティアが参加しながら、植林だけでなく、環境国際交流も実施しています。

今年度も、前年度から続くコロナ過における活動制限の状況下で、可能な活動を継続しました。

マレーシアでは、首都圏を中心とした全国的な感染者数拡大により、昨年6月1日から「完全活動制限令」が発令され、一部の生活に不可欠なサービスを除いて、社会・経済活動の多くが停止し、州・地区を越える移動は原則禁止となりました。その後、「国家回復計画」へ移行し、諸条件を満たすまで活動制限令の規制が継続されました。感染者数の減少に伴い、昨年11月から徐々に諸制限が緩和され本年1月からサラワク州とクダ州は国家回復計画の第4段階へ移行し、ほぼ全ての社会・経済活動が再開しました。マレーシア政府の規則(SOP)において、サラワク州及びクダ州における環境保全活動は、禁止される活動には当たらないため、現地の状況に合わせて活動を実施しました。

マレーシアでは、新規感染者が7日間平均で1日約1万9千人(3月29日)、ワクチン接種は、全人口の79%が2回接種を終え、48.1%が3回目接種を終えています(3月29日)。当事業現地関係者はワクチン接種を済まし、安全を最優先し、政府の規則に従って活動に従事しています。

今年度のサラワク州とクダ州における熱帯雨林再生活動の実施状況をご報告します。

●サラワク州における活動

「三菱商事(株) 熱帯雨林再生プロジェクト」

昨年度より、アペン国立公園とサバル国立公園において、これまでの二次林区におけるライン式植林と劣化の激しい草地での密植・混植式を組み合わせた植林を行っています。また、両地域の村落で、村の女性による果樹等の育苗を行っています。

今年度は、サバル国立公園、アペン国立公園、バライ・リンギン保護林において約4万本の植林と、活動地域の苗圃において約5万本の育苗を行いました。

昨年度から始めた、密植式に植えた地域の中に調査区画を設定し、そこで植栽木の成長データを定期的に計測しています。マレーシア・サラワク大学の専門家による分析を行い、今後の植林に活用していきます。



三菱商事KL支店の方が植林地を視察(2022年1月20日)

「櫛木下グループ 青少年研修プログラム」

マレーシアでは、2020年3月の活動制限令後、小中高校は休校となり、一部期間を除いて校内での授業は限定されていましたが、本年1月から、人数を制限した形式での対面授業が再開しています。学校内や町中の店舗等ではマスク着用が義務となっているので、収入の少ない村落地域では、マスクを常備するための負担が大きくなっています。そのような状況の中、「木下の森 青少年研修プログラム」では、植林活動地域にある小中高校や村落へ定期的なマスクの寄贈を行っています。

今年度は、2万1500枚のマスクを寄贈したほか、手洗い用の消毒液を植林活動地域の小学校へ寄贈しました。村落地域ではマスクや消毒液を十分確保する余裕がないので、大変ありがたいとの声が寄せられました。本協会では、今後も、定期的にマスクと消毒液を、周辺地域の村落や学校へ寄贈します。

また、同プログラムの一環として、アペン国立公園内「木下の森」エリアで植栽木のメンテナンス作業を行ったほか、3月30日(水)には、クチン近郊のサラワク・マングローブ保護林地域に位置するブンタル村沿岸で、地域住民とマレーシア・サラワク大学生らが参加し、植林活動を実施しました。



バライ・リンギン中等学校へマスクを寄付



ブンタル村沿岸で植林

「タカサゴの森 熱帯雨林再生プログラム」

高砂熱学工業(株)のご協力により、マレーシア・サラワク大学で実施している「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラムは、昨年3月の「活動制限令」以後、同大学内に学生や外部作業員の立ち入りができなくなったため、教員と大学スタッフによって活動を継続しました。昨年6月の「完全活動制限令」以降は、大学スタッフが育苗管理と植栽木のメンテナンス作業を継続し、10月から教員と大学スタッフによる植林作業を再開しています。12月までに5,000本の育苗、3,150本の植林を実施しました。

1月以降も、育苗、植林、メンテナンス作業を続けています。2月9日(水)にマレーシア・サラワク大学のダト・カディム副学長と面会し、これまでの進捗と今後の予定について協議しました。2022年は同大学30周年なので、記念植樹行事の実施を検討しています。



ダト・カディム副学長(右から2人目)と



植栽木が順調に成長

「JACリクルートメントPPPプロジェクト」

サラワク州スリアン地区のアペン国立公園とサバル国立公園で、JACリクルートメントのご協力による「PPPプロジェクト」として、6,815本の植林を実施しました。

「ダンロップホームプロダクツの森」

サラワク州ルンドゥ地区のサンパディ保護林で、(株)ダンロップホームプロダクツご協力による「ダンロップホームプロダクツの森」の活動として、2,400本の植林を10月中旬から11月中旬にかけて実施しました。

「パートナーシップフォレスト」

ダイドードリンコ(株)の自販機設置ご協力企業・団体との「パートナーシップフォレスト」活動として、アペン国立公園で10月に486本の植林を行いました。

「バライ・リンギン保護林で植林とメンテナンス活動」

昨年、サラワク州スリアン地区バライ・リンギン保護林において、1995年に熱帯雨林再生のための在来種植林を開始した地域の一角が、サラワク州森林局によってシード・バンク(フタバガキ科在来種の種を収集する森林区)に指定され、維持管理されることになりました。この森林区は、ボルネオ島の主要な在来種のひとつであるエンカバン・ジャントンの種子を収集する場所となります。

昨年12月、地域住民が参加し、植栽木のメンテナンスと植林作業を行いました。

●オランウータン保護へ協力

本協会では2017年度より、サラワク州セメング野生生物保護区にあるオランウータン保護センターへ、オランウータンが暮らす森の保全と、オランウータンの保護活動への協力として、毎年1千リングを寄付しています。

今年度は、2月16日(水)に寄付を行いました。



アペン国立公園で植林



サンパディ保護林で植林



パートナーシップフォレスト



オランウータン保護センターへ寄付



バライ・リンギン保護林

●クダ州における活動

「楠木下グループ

木下の森マングローブ林再生プロジェクト」

2019年度より、「木下の森マングローブ林再生プロジェクト」をマレーシア半島部クダ州に位置するムルボック湿地保護林において、マレーシア理科大学(USM)、学校、村落と協働で実施しています。

昨年4月に地域住民による1,000本の植林を行いました。6月の「完全活動制限令」以降、村人による育苗以外はしばらく休止となりました。その後、8月に州政府の許可のもと少人数の村人により200本の植林作業を行いました。9月と10月は活動制限のため植林作業ができませんでしたが、11月と12月に作業を再開し、地域の人々の協力を得て、2000本の植林を行いました。

本年1月以降、地域の人々の協力を得て、苗床拡張、育苗、植林、メンテナンス作業を継続しています。

「普及啓発プログラムの実施」

「木下の森マングローブ林再生プロジェクト」の一環として、マレーシア理科大学、マレー半島北部の行政・教育機関、NGO等とのネットワークを活用し、マングローブ林再生活動に参加する団体の確保に取り組む活動を実施しています。

2021年の活動制限期間中、地域の学校を対象にオンラインによる教育プログラム「マングローブと私達の暮らし 作品コンテスト」を実施しました。8月20日から9月25日、マングローブをテーマとした物語、エッセイ、写真を募集し、16の小中学校から69作品の応募がありました。その中から優秀作品を選び、9月30日(木)にオンラインで表彰式を行いました。11月に活動制限が緩和された後、各学校へ優秀者への景品を贈呈しました。11月24日(水)には、ハジ・オマー・タヒール小学校にてマレーシア工芸局と協働し地域の村人が新たな技能を学ぶ機会として、バティックと陶芸のワークショップを開催しました。

2022年1月から活動地域の学校で分散登校による授業が再開したので、同月15日(土)と16日(日)に地域のプログラム拠点校ハジ・オマー・タヒール小学校にて、6年生を対象とした環境教育プログラムを実施しました。



地域の人々がマングローブ植林を実施



苗床を拡張



教育プログラム優秀者へ景品を贈呈



小学校で環境教育プログラムを実施



バティックと陶芸のワークショップ